

京北の歴史や原風景を後世に残していきたい

特定非営利活動法人ふるさと京北鉾杉塾

林田 祥子さん

木下 恵子さん

京北には歴史的にも価値のあるものがたくさんあります。しっかりと歴史の掘り起こしをして、移住して来られた方もどんどん巻込んで、地域ぐるみで京北の歴史や原風景の保全に取り組んでいきたいです。(木下さん(右), 林田さん(左))



道の駅「ウッディー京北」から車を走らせること約10分。自然豊かな風景が続く集落の中に入っていくと、茅葺き屋根の小屋が見えてきます。ふるさと京北鉾杉塾が平成23年から約2年半かけて塾員と専門学校生が一緒になって完成させた「茅のいえ」です。小屋の中央には囲炉裏があり、周囲に置かれた丸太の椅子に座り、囲炉裏で沸かせたお茶を片手にほっこり語り合う事ができます。

置かれている家具も程よく燻されており、そこに集う人々が談笑する風景が臉の裏に浮かんできます。

「(置かれている家具は) 1ヶ月も経ってないんですけど、燻されちゃってもう真っ黒なんです」

そう少し困った様に、でも楽しげに語る木下さんと林田さん。今回は同塾の女性部で活躍されているお二人にお話を伺いました。



■「人づくり」として活動をスタート

ふるさと京北鉾杉塾は、約20年前に「人づくり」を行う塾としてスタートしました。その一つとして、開塾当初から「森の寺子屋」という工作体験や自然観察など自然を題材にした取組を通じて、子どもたちが自然と触れ合う活動を行なっています。最近では鉛筆削りすらやったことがない子どもが多いため、例えば児童館から、川遊び体験を子どもたちにさせたいということで依頼がある



など、様々な方面からオファーがあるようです。

そして「農」による人づくりとして、「朝市」を運営されてきました。「朝市」は地域の高齢者が自身の畑で作った作物を売る場所が欲しいという要望があったため、銚杉塾が運営を担うかたちで開始しました。

最初は10数軒の農家からスタートし、回数を重ね、京北合同庁舎の中で実施するようになったときには、約30軒の農家が店を出すまでになりました。しかし、道の駅が完成した頃には、出店者の高齢化が進んでおり、また、京北合同庁舎内の朝市と道の駅での出店も可能になって農家も独り立ちし始めたため、10軒に満たない日が続いていました。銚杉塾としてはこの状況を発展的解消と捉え、現在は運営の手を離れていますが、農家の方々の手によって現在も継続的に実施されています。

■ 地域との連携について

銚杉塾では、これまでは地域のお祭りやイベントに企画出展する形で地域団体と連携して活動を進めてきました。例えば、京北自治振興会が主催する秋の「ふるさと祭り」では企画として餅つきを担当したり、毎年、山国神社で開催されている「山国さきがけフェスタ」にも協力されています。

これまではお祭りやイベントごとに自治会や町内会等の地域団体と関わりを持ってきていましたが、これからは自治会や町内会と日常的に連携していきたいと考えています。



その一つとして、「茅のいえの山野草展」があります。「茅のいえの山野草展」は、従前は「石楠展」として道の駅で開催していたものを、「茅のいえ」オープンとともに、自然の中で石楠花（京北の花）と山野草を併せて見ていただくよう実施されたもので、26年度には「京北オープンガーデン」に加入して一層の広がりを目指されています。「京北オープンガーデン」とは、京北地域にお住まいの住民の庭を見て回ることができる企画で、広く市民に開かれた場として展開しています。自治振興会と連携することで、

銚杉塾単体ではできないことが、京北地域全体で地元住民を巻き込んだかたちで展開する事ができています。

また、今年の8月には、宮内庁への「献上鮎」を再現しました。「献上鮎」は平安遷都から幕末まで続いていた行事で途絶えていましたが、再現させ、京都御所に鮎を奉納し、運んできた鮎を正親小学校（上京区）の生徒たちに振る舞うという行事を実施しました。

■現在抱えている課題について

現在抱えている課題としては、若い世代の担い手を挙げられました。「次の世代にバトンタッチしていきたいが、なかなかうまくいかない。」そう語る木下さん。過去に右京区の「応援隊」を募集して、何人かは興味を示して訪れてくれましたが、足繁く通ってくださる方はなかなかいらっしゃらない様子です。そうした中、立命館大学や京都大学、花園大学などが「京北」について調査に入ってきており、期待を寄せておられます。

■終わりに…

現在、日本の各地で外国資本による資源（山など）の買い上げが起こっています。これまで保ってきた環境の変化や資源の枯渇など懸念されます。鉾杉塾としても、まだまだ暗中模索ですが、京北地域だけではなく京都全域にも関わってくる課題でもあるので、多様な人々を巻き込み、地域ぐるみで守り、京北の原風景である水・木・風などの宝物を後世に残していきたいと力強く語られました。

